国語	第４学年	江田島市立大古小学校	指導者　湊　喜美夫

単元名

伝統工芸展の学芸員になろう！

～日本の伝統工芸のよさをたくさんの人に知らせよう～　　計２１人

「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」（光村図書）

本単元で育成する資質・能力　読解力，協働する力

１　本単元の指導目標とめざす児童の姿

【指導目標】思Ｂ（１）ウ，思Ｃ（１）ウ ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。 ◎目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約することができる。	【キーワード】 ①自分の考えを支える理由と事例との関係を明確にして書く。 ②中心となる語や文を見つけて要約する。
【単元終了後にめざす児童の具体的な姿】 ①自分の考える「よさ」や「魅力」を相手に伝えるために，「具体例を示し」たり「よさや魅力だと判断する理由を述べ」たりすることができる。 ②目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約するために，写真や絵図などと文章を照らし合わせて文章を読んだり，筆者の考えの理由や例を見つけたりして読むことができる。	

２　想定される児童のつまずきと手立て

・　要約するとき，何をどのようにまとめるか分かりにくい。

→　要約に必要な中心となる語や文を見つけるときは，写真や絵図などと文章を照らし合わせて読ませる。その後，モデルを示しながら，要約させる。要約の際には，「学芸員として」「来展した人に」「1分程度で」など，要約する目的意識をもたせ，要約の分量を加減する目安にする。

・　文章を書くことに抵抗がある。

→　伝統工芸品の「よさ」や「魅力」を伝えるためという目的を意識させ，調べるときに，具体例や，よさや魅力だと判断する理由をメモしておくワークシートを用意し，情報を整理させておくことで，文章につなげやすくする。

３　単元計画（全１５時間）

次	時	学習内容や学習活動	学習する事柄	評価規準（評価方法）
0		・社会科で，伝統工芸を調べ，世界にほこる伝統工芸には，他にどんなものがあるか，課題意識をもつ。	・課題のもち方（課題発見）	
一	1	・単元の見通しをもつ。 ①教材文「世界にほこる和紙」を範読する。 ②伝統工芸について，初めて知ったことや感心したことを出し合う。 ③伝統工芸のよさや魅力が伝わるようなリーフレットを作り，伝統工芸展を開くという学習のゴールを決め，計画を立てる。 ④今後の学習に向けて，伝統工芸に関する本を	・学習計画の立て方	・単元のゴールをイメージして意欲を高めている。（発言・ノート）

		読み始めさせる。		
二	2	・教材文を読み，内容と筆者の伝えたいことを読み取る。	・おおまかな内容を捉える ・文章全体の構成の捉える	・おおまかな内容を捉えている。（ノート，発言）
	3	・「中」に述べられている，筆者の考えの理由となる二つのことを読み取る。	・和紙のよさと和紙を使ってほしい理由について知る	・「中」に述べられている筆者の考えの理由を読み取っている。（ノート，発言）
	4	・「中」で，どのような例が何を説明するために述べられているのかを読み取る。	・表現の工夫 (例を挙げる)	・「中」の具体的な事例が何の説明のために述べられているかを読み取っている。（ノート，発言）
	5（本時）	・まとまりごとに中心となる語や文を考え，「世界にほこる和紙」を要約する。	・要約の仕方	・中心となる語や文を捉え，文章を要約している。　（ノート）
	6	・百科事典での調べ方を読み，百科事典の使い方を知る。	・百科事典の使い方	・百科事典の使い方を理解し，使っている。（観察）
三	7 8 9	・伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。 ・取り上げるものを決めて，本などで調べ，情報を整理する。	・情報の整理	・自分が伝えたいことについて調べている。 （ノート）
	10 11 12 13 14	・組み立てを考え，下書きをする。 ・レイアウトを工夫し，リーフレットを作る。	・文章全体の構成や展開の工夫の活用 ・表現の工夫の活用	・調べたことをもとに，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している（ノート）
	15	・授業参観で，家の人に紹介をする。 ・単元の学習を振り返る。		

4　言語活動の見本

3ページ目

2ページ目

５　本時の学習（５/１５時）

（１）　本時の目標

段落ごとに中心となる語や文を捉え，文章を要約することができる。【思Ｃ（１）ウ】

（２）学習展開

	○学習活動　・予想される児童の反応	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
0	１　めあてを確認する。 「世界にほこる和紙」を要約しよう。		
5	2　理解する。 ○　要約の仕方を知る。 （中心となる語や文） ・「ユネスコの無形文化遺産」 ・「すばらしいぎじゅつ」 ・「ほこりに思っています」 ・「より多くの人に和紙のよさを知ってもらい，使ってほしい」 （要約例）１・２段落 ・①和紙は，すばらしいぎじゅつで作られている。 ・②だから，筆者は，ほこりに思い，多くの人に和紙のよさを知ってもらい，使ってほしいと思っている。	・１・２段落は，中心となる語や文を全体で確認しながら，つなぎ言葉などを使い，要約する。 ・要約は，１段落につき，大体一文でまとめる。 ・要約のコツは板書して明示する。 **・書いてある文章の順に書く。** **・語句，文章をそのまま生かす。** **・つなぎ言葉，つけ加え，まとめる。**	
15	3　理解を確かめる。 ○「世界にほこる和紙」の１～６段落をグループで要約する。 （要約例）３～６段落 ・③和紙は，やぶれにくく，長もちする。 ・④和紙は，長いせんいでできているので，やぶれにくい。 ・⑤また，和紙は，高い温度や薬品を使っていないから，長もちする。 ・⑥このようなとくちょうにより，昔の文書を読むことができたり，古い絵画や手紙の修復に使われたりしている。 ○要約するとき，どんなことに気を付ければよいか交流する。 ・つなぎ言葉を使い，文と文のつながりをはっきりさせる。 ・文章をそのまま生かすが，つながりにくいときや意味が分かりにくくなるときは，文章を削ったりつけ加えたりする。	・教材文をコピーしたものを渡し，中心となる語や文に線を引かせておき，それを利用して要約する。 ・要約したら，参観している先生方に聞いてもらう。 ・うまく要約できていれば，どんなところがよかったか聞く。 ・うまく要約できていなければ，もう一度要約し直して，聞いてもらう。 ・「中」に例を入れると，分かりやすくなることがあるが，長すぎると分かりにくくなることもあることを確認する。	
30	4　理解を深める。 ○「世界にほこる和紙」の７～１０段落を自分で要約する。 （要約例）７～１０段落 ・⑦筆者が和紙を使ってほしい理由は，和紙の風合いが美しく，自分の気持ちを表せるからである。 ・⑧例えば，手紙を書くとき，受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて，和紙を選ぶ人がいる。 ・⑨筆者は，めいしを和紙で作っているが，それは相手に，よろこんでもらいたいという思いからである。 ・⑩このように，和紙は，さまざまなところで使われてきた。だから，生活の中で使ってほしい。	・自分で要約したら，参観している先生方に聞いてもらう。（要約は１～１０段落を聞いてもらう。） ・うまく要約できていると評価されたら，要約文をノートに書く。	・中心となる語や文を捉え，文章を要約している。 （ノート）
42	５　本時の学習をまとめる。 ○本時の学習についてノートにまとめる。		